



真宗高田派本山 専修寺

高田本山だより

令和5年 秋号

135



高田本山 HP

令和5年秋号（第135号）／発行・令和5年9月10日／〒514-0114 三重県津市一身田町2819番地 TEL 059-232-4171 www.senjuji.or.jp



今年もお浄土に咲くといわれる蓮が
境内を彩りました



記録的な暑さといわれた今年の夏も、
蝉がいのちの限り声をからして鳴いて
いました。

蝉といえば夏の風物詩ですが、浄土
七高僧の一人、曇鸞大師は「蝉は夏
を知らない」とおっしゃいました。夏
しか生きられない蝉は春や秋を知らない
ので、自分が夏という季節に生きて
いることを知らないということです。

ひるがえって私は今という世界に
生きているのでしょうか。毎日のち
の限り声をからして、何を叫んでいる
のでしょうか。

仏様は「あなたの生きている世界は
四苦八苦の絶えない娑婆（堪忍土）で
ある」とお説きくださっています。自
分自身を俯瞰する眼をいただくことは、
仏法を聞く大きなご利益のひとつです。

無常こそが日常

―お通夜での法話より―



高速道路サービスエリアの売店の一番目につきやすい所に、香典袋が置かれています。突然の訃報^{ふほう}を聞いてあわてて車に乗り込んだ人のために、その用意をしているのでしょう。無常がいかに不意にやって来るものかということがよく分かります。

観光寺院の本堂の前に、よく沢山のローソクが並んで燃えていることがあります。火をつけたばかりの長いのもあれば、余命わずかな短いものもあります。ところが、サツと風が吹けば長短に関係なく、ほとんどの火は消えてしまします。長いローソクが長生きするとは限

りません。まさに順不同です。

思えば私も、風前のローソクのような命を生きているのです。

ローマの墓地に「次はお前の番だ」と書かれたお墓があるそうですが、ただ漫然といつまでも生きているつもりのお墓もへの、厳しい警告のイエローカードであります。

私の命は「明日ありと」どころか「今日ありと思う心の仇桜^{あなづくら}」であり、いつ笛を吹かれるか分からない口スタイムの中を生きているのです。

今日という日は、昨日亡くなった人が、生きたくても生きることの出来なかった日であります。故人様は今夜このお通夜の席で、ど

れほど皆様方と手を取り合って語り合いたかったことでしょう。

そのお心を思いつつ、私もまた故人様をしのびながら、限りある命を生きてゆきたいと思うことがあります。

三重県第八組 三縁寺

前住職 愛洲祐昭



報恩講にお参りされる人々（昭和32・33年頃）

御本山御用達

鍵長法衣仏具店

京都市下京区油小路正面東入（中央局区内）
電 話 （075）371-0854・8181～2番
FAX （075）344-2701番
振替口座・0170-3-972番 郵便番号600-8344

創業1586年

松井建設株式会社

取締役社長 松井隆弘
執行役員支店長 野村守宏

本 社 東京都中央区新川一丁目17番22号 ☎03-3553-1150
名古屋支店 名古屋市中区栄五丁目28番12号 ☎052-249-4771

「神社に参拝はダメですか？」

皆さんは「真宗は神社に参つてはダメ」や「真宗の家に神棚がある」とダメ」と耳にしたことはありませんか？

これを聞き戸惑った方も少なからずいることでしょう。果たして真宗として、どのように受けとめていくべきなのでしょう。

結論から述べさせていただきますと、神社に参拝することは全く問題ありません。また、神棚があるからといって阿弥陀様のお救いから除かれるなんてこともありません。しかし、誤解を恐れず言うならば「必要ない」ものではありません。決して、神社や神棚が必要ないという意味ではありません。多くの神社が自分（人々）の願いを神に祈る場と認識される一方で、寺院（特に真宗）は佛の願いを聞く場であるという根本的な違いがあります。阿弥陀様の願いがギュッと詰まったお念佛をいただいたなら、う

わついた自分の願いなんてものは、そもそも「必要ない」ものであると、気付かされるのがお念佛の教えなのです。

では、このことを親鸞聖人はどのように申されているのでしょうか。『浄土和讃』の「現世利益和讃」十一首目に、

天神地祇ハコトゴトク

善鬼神トナツケタリ

コレヲノ善神ミナトモニ

念佛ノヒトヲモルナリ

と、お念佛をいただいたこの身を、神々もほめたたえてお護りくださるとまで申されているのです。佛

様だけでなく、神々が私をお念佛の道へと導いてくださっているとは、もったいなくも有難いことです。そんな神々を粗末にあつかうことなどあつてはいけませんね。

よく縁起が良い・悪いなどと言いますが、それは、私の都合の善し悪しであり、自己中心的な線引

きに過ぎないのです。自分の好都合が誰かの不都合でも構わないという心から、敵と味方を作り出し、排他的な生き方しかできないのが私なのです。つまりこの問題は、お参りする場所ではなく、参る私自身にあつたのです。そして、そんな私の姿を知らしめていただくのも、お念佛しかないのです。

そんな私が神社へと参らせていただいたなら「お念佛とのご縁をお護りくださり、ありがとうございます。南無阿弥陀佛」と、感謝の意を込めてお念佛させていたただくのです。神社でもお念佛なんておかしいでしょうか？

そう言われましても、どうにもこうにも、私どもにはお念佛ただ一つなのです。

南無阿弥陀佛
(教学院第三部会)



日本古来より伝わる土壁の家づくりと伝統建築の保護・再生
土壁・漆喰・電の伝統技術を守り継承していきます

一層築舎

Sochikusya Co., Ltd

〒510-0031 三重県四日市市浜一色町 16-35

TEL 059-332-1444 FAX 059-344-2627

E-mail : souchikusya@gmail.com URL : <https://tutikabe.net/>

法衣・仏具製造及び販売



井筒法衣店



代表取締役社長 今岡規代
●本社
600-8468
京都市下京区堀川通
新花屋町角西本願寺前
Tel 075-351-1234
0120-075-720
Fax 075-341-7905
●東京店
160-0008
東京都新宿区四谷
二栄町十四番地三
Tel 03-3358-1500
Fax 03-3359-8902

オンラインショップを開設しました

「燈炬殿だより」

公開承認施設をめざして

親鸞聖人とお弟子の方々の、お念仏をひろめたいという懇念がまさに結実した真宗高田派の本山専修寺は、真宗の教えに触れる上で欠かす

ことのできない法宝物のうち、全体の約4割近くを所蔵しています。法脈の高田派の面目躍如たる所以であります。専修寺の宝物館「燈炬殿」は、これら法宝物を大切に収蔵し、未来へつなぐためのものです。

旧宝物館は、親鸞聖人の宗祖700回遠忌法要を記念して昭和37年に作られました。しかし、建設後60年を経て、老朽化が懸念されたため、開山親鸞聖人御誕生850年の奉讃法会の記念事業として新宝物館の建設が企画され、今年令和5年5月20日に竣工落成式を迎えました。これ

は、各御寺院、檀信徒をはじめ数万人の皆さんからの御懇志のたまものと感謝しております。

さて、館長のわたくしが最初に宝物館に関わったのは、旧宝物館の取り壊しに際して、当時館長を務めておりました三重県総合博物館に法宝物をお預かりすることになった時です。印象に残っているのは、搬出の日、法主殿がずつつきつきりで、梱包、積み込み、搬出を見守っておられたことです（挿図1）。また、総合博物館では、お預かりした資料の点検と、写真撮影が行われていますが、ここでも法主殿がほぼ毎回立ち会われて、資料を見守っていただいております。調査には、総合博物館の専門家と専修寺のスタッフが当

たっています。旧宝物館では、調べる空間も十分ではなかったことから、新たに目にする資料もあるように、調査は毎回慎重な中にも、熱気と興奮に包まれています（挿図2）。新宝物館には、最新の空調設備を備えた収蔵庫と、撮影等が可能な前室がつくられ、法宝物を大切に守り、いつでも調査や点検ができるようになっていきます。

宝物館は、公開承認施設の認定を目指していますが、認定を受けると、企画展などで、専修寺が所蔵する国宝・重要文化財を極端な制約を受けることなく展示できるようになります。事実、専修寺には法宝物をはじめ豊富な資料があり、企画展の材料には事欠きません。すでに、5月21日から7月9日までオープニング記念の「知られざる専修寺の至宝」展を開催し、皆様から好評をいただきました。

また現在、7月25日から10月1日まで特別展観「見真大師と聖徳太

ええじゃないか
～いい旅いい発見～
毎週月曜日 よる7時
(毎週土曜日 ひる12時再放送)
YouTubeで見逃し配信も！
公式ホームページをチェック。 三重テレビ ええじゃないか

4月～1月 (全10巻シリーズ) 4K
第4土曜日 21:00～21:55
翌月第2土曜日 21:00～21:55 再放送

MTV 三重テレビ放送

高田本山御用達
三重県仏教会御推薦
石碑
記念碑
燈籠

高級御影石専門店
御影石材株式会社
(石に御用の方は) イシニコヨオ
☎0120-142540

本店 津市広明町(影見寺門前)
☎059-224-1700(代)



搬出を見守っておられる法主殿 (1)



調査は熱気と興奮 (2)



繋がりを示す茶器 (5)



明治天皇・皇后がお座りになられた椅子 (4)



明治天皇による勅額原本(3)

子」を開催しています。今回の展示では、親鸞聖人が師と仰がれた聖徳太子に焦点を当てるとともに、親鸞聖人の徳を讃えて「見真大師」という称号をあたえられた明治天皇ゆかりの品々も展示されています。その一つは、御影堂に掛けられている大きな「見真」の扁額のもととなった明治天皇による勅額原本です(挿図3)。また、明治天皇・皇后がお座

りになられた椅子(挿図4)やなど両陛下をはじめ歴代天皇とのつながりを示す茶器(挿図5)など、文化の香り高い品々も展示しています。このような実績を積みながら、数年後には公開承認施設になることを目指しつつ、多くの皆様方に高田派に伝わる法宝物をはじめ、高田本山の巨大な伽藍の息吹をますます体験していただけますよう、ご参拝をこころよりお待ちしております。合掌

前号において『親鸞の念仏三昧論①』の定価表記に誤りがございました。正しくは「定価 2,750 円(税込)」です。謹んで訂正いたします。

永田文昌堂	
①親鸞の念仏三昧論 武田 龍精著 定価2,750円(税込) 法照禅師の「念仏三昧これ真宗なり」の著名な一句について、親鸞聖人による真宗の真実義が念仏三昧であることを解明せんとした必読の一冊。	②阿弥陀仏の願いと信心 一宇宙世界の時間と空間を超えて一 堀月 即勝著 定価2,640円(税込) 浄土真宗で最も大切な「阿弥陀仏の願い」(本願)と「他力の信心」(真実の信心)を中心に、筆者自身の信心とお念仏の体験を踏まえて述べた実践的な解説書。ほとんどの仏教用語に振り仮名を付け、初心者の方でも読みやすい一冊。
京都市下京区花屋町通西洞院西入 ■TEL 075-371-6651 ■FAX 075-351-9031	

永田文昌堂	
①宗教哲学と真宗民俗学 —真宗信仰の諸相— 和田 俊昭著 定価11,550円(税込) ヨーロッパ思想をあつかった初期の論文から、浄土真宗における開山(宗祖親鸞・中祖蓮如)信仰についての論文、儀礼と真宗文化論・民俗論を中心にした晩年の論文など全十九本を収録。著者の研究を凝縮した力作ぞろいの遺稿集。	②山下義信と童心寺 新田 光子著 定価660円(税込) 広島震災児育成所の運営と参議院議員としての政治活動、また童心寺住職として、本願寺派布教師としての山下義信師の活動を、戦後七〇年にわたる童心寺の略史としてまとめる。
京都市下京区花屋町通西洞院西入 ■TEL 075-371-6651 ■FAX 075-351-9031	

「門跡寺の練堀さん」
真宗高田派専修寺

関東別院



専修寺関東別院は、江戸時代中期に下谷練堀町（現秋葉原駅高架下付近）に創建されました。

「門跡寺」と尊称され、格式の高い寺院として江戸町内に知られ、常にお堂には人々が満ちあふれていました。

「報恩講」や「一光三尊仏御開帳」時には参詣者が列をなし、「練堀さん」の名で知られ落語の演目「宗論」に当別院が登場するなど知らぬ者はいなかったと言われました。

関東大震災、戦災の影響で壊滅的な打撃を受け、本所の仮寺院を

経て現在の大田区六郷の地に移り1973年に本堂の建立ならび庫裡の改築事業、落慶、2003年には聞光殿（法要所）客殿を落慶し現在の姿となりました。

平成以降は後継者がいないなどお墓に不安を抱える方々へ向けて、永代供養墓の新設に力をいれ、現在までに納骨壇を含め10種類の永代墓建立にいたしました。

また、関東別院は高田派一般寺院が無い千葉県に千葉分院を、教育都市であり居住者人口が増加傾向の茨城県つくば市につくば分院と二つの分院を創設し東京だけで

はなく関東全体の高田派布教の窓口となれるよう尽力しております。

関東別院ではこれまで修正会をはじめ讃佛会（春、秋）、花まつり、永代資堂講法会、歓喜会、報恩講と毎回お同行の皆様で満堂の中、厳粛に法会を勤めてまいりました。

しかし2020年から新型コロナウイルス感染防止による行動制限が始まり、にぎわっていた境内から人影が減りました。

そんな状況ではありましたが、規制期間中は職員全員一丸となり僧侶のみですが法会は欠かすことなく勤めてまいりました。

その際もお同行の皆様のお気持ちが届くことなく多くのご支援をいただきあらためて「ご縁」によって私たちは支えられているのだと痛切に思いました。

その後も新型コロナウイルス規制の動向と向き合いつつ、2022年以降

は状況が改善することに1か所に留まらない回廊式焼香を取り入れてみるなど何度も協議、入念なりハーサルを重ね安心安全な新しい形式の法会にも挑戦しました。そして2023年、規制も緩和された事を受け、春の讃佛会よりマスク着用の制限を設けましたが堂内満堂の中、皆様と読経できる形まで戻すことができました。

現在も新型コロナウイルスによる余波はございますが、少しずつでも以前の活気を取り戻し、お一人おひとりに真摯に向き合えるようより一層精進し、後進の僧侶育成にも力を入れていくと同時に連日お参りの方が集まった練堀町時代を彷彿とさせる「開かれた寺」を目指し、今後も「御開山親鸞聖人」の教えを絶えることなく伝えていけるよう努めて参ります。

真宗高田派専修寺関東別院

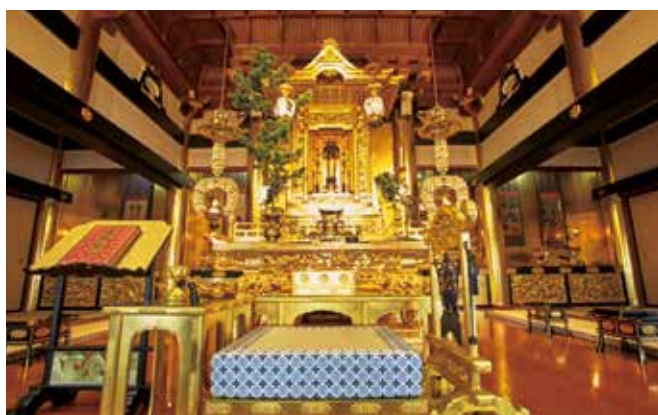
輪番 英 法悦



報恩講 コロナ禍のため法主殿もお呼びできず職員のみで勤めた



本堂外観（報恩講）



本堂内観（平時）



除夜の鐘～修正会

ひとくち法話・第95話

諸法会——3より

讃佛会

— 本年の讃佛会は9月20日（水）から26日（火）まで

「暑さ寒さも彼岸（ひがん）まで」と言います。春分の日を中心に1週間、秋分の日を中心に同じく1週間、この春秋二季の彼岸は、日本人の心に根付いている心温まる意識です。

彼岸は仏典に出てくる言葉で、パラミターというインド語を訳したものです。彼岸とは到彼岸（とうひがん）の略で、迷いの世界（この世）から悟りの世界に到るということです。この迷いの世界を此岸（しがん）といい、如来の悟りの世界を彼岸と名付けています。

宗祖親鸞聖人（しゅうそしんらんしょうにん）は「人みなこの此岸、つまり人間世界から彼岸への途を歩まねばならない」と申されています。

此岸から彼岸へのこの道は阿弥陀如来ご回向（えこう）の道であります。浄土への道は実は浄土からの呼びかけの道であります。彼

岸会はインド、中国にはなく日本独特の法会です。真宗では彼岸の1週間を仏徳（ぶつとく）を讃嘆（さんだん）する場として、また聞法（もんぼう）のご縁の場として大切にしています。

したがってわが高田派でも、彼岸会を讃仏会と称して、仏にお礼を申し、仏を称える法会を勤めているわけがあります。ご和讃に

生死（しょうじ）の苦海（くかい）ほとりなし
ひさしくしずめるわれらをば

弥陀（みだ）の悲願（ひがん）のふねのみぞ
のせてかならずわたしける

『高僧和讃 龍樹菩薩讃第7首』と親鸞聖人がお述べになっておられるとおり、苦悩の世界（此岸）に沈んで久しい私達は、阿弥陀様の悲願によって救われる（彼岸）のであります。

こんな行事がありました

遠くからも多数が聴講

仏教文化講座

8月1日から5日まで、高田会館ホールにおきまして、第九十七回仏教文化講座が開催されました。遠くは茨城県からもご参加があり、皆さん熱心に聴講されていました。



龍谷大学・鍋島先生



法主殿の御親講



早稲田大学・柳澤先生の親鸞聖人と天台浄土教

行事案内

- 第二十九回法話発表会 九月七日
- 讃佛会 九月二十日～二十六日
- 第四十二回坊守・婦人会合同研修会 十月(中止)
- 第四十七回住職補任研修会 十月八日～九日
- 第七十三回檀信徒研修会 十月十七日
- 第二十八回教学院研究発表大会 十月三十一日
- 納骨堂法会 十一月三日～四日
- 秋法会 十一月五日～十日
- 資堂講法会 十一月八日～十日
- 中興上人御正當 十二月八日～十日

お七夜献書展 作品募集

第五十三回お七夜献書展課題 作例

もん
たかたろう
幼稚園
大音
小三 高田太郎
阿弥
小六 高田太郎

きえ
小一 高田たろう
光明
小四 高田太郎

十方
小二 高田太郎
念称
小五 高田太郎
仏名
小三

我建超世願
中一 高田太郎
自利利他円満
中三 高田太郎

世尊我一心
中二 高田太郎

其仏本願力 聞名欲往生
皆悉到彼国 自致不退転
高田太郎

本願力にあいぬれば むなくすぐるひとぞなき
功德の宝海みちみちて 煩悩の濁水へだてなし
高田太郎

高校生・一般

お知らせ 第73回檀信徒研修会

日時：令和5年10月17日(火)
9時30分(9時受付)～15時15分
会場：御影堂・高田会館ホール他
日程：午前 講義「高田のあゆみ」
明通寺住職 佐波真教師
講演：「無明長夜の燈炬なり」
高田短期大学学長 清水谷 正尊師
午後：特別拝観 宝物館「燈炬殿」ほか
全体会・閉会式

持ち物：檀信徒研修会ファイル(受付簿)
※初参加の人は受付でお渡しします
参加費：1,000円(昼食込み)
申込方法：申込書をご記入の上、お申し込みください。申込書は高田本山へ「イベント・お知らせ」↓「第73回檀信徒研修会のお知らせ」からも印刷できます。
申込締切：令和5年10月10日(火) 締切必着
問合せ先：高田本山宗務院教学課

上記の課題で第53回お七夜献書展の応募作品を募集しております。詳細は高田本山へ参照、もしくは宗務院(059・232・4171)までお尋ねください。



奉讃法会での金澤翔子様の揮毫

寺院名

人口減少社会へ突入した地域に必要なのは「お寺」だと思う。

方言から生まれる情報発信や
フロンティアをサポーター!

三重に暮らす・旅するWEBマガジン

OTONAMIE

otonamie \14,500フォロワー突破!
mail otonamie@gmail.com
tel 059-268-3538 (壽印刷工業株式会社)



お寺の実績
紹介記事

お寺とともに
地域をつくる。